

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立佐良山小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成」
 考える子
 思いやる子
 やりぬく子

今年度の指導の重点

1. 自ら主体的に学び、基礎基本の定着と活学力の向上を図る。
2. 特別支援教育の充実を図る。
3. 命や人権を大切に子どもを育成し、心豊かな人間性を育む。
4. 家庭や地域社会との連携を密にし、安全安心で開かれた学校づくりに努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

・全国(小学校)
 理科は県平均を少し下回ったが、国語A、算数Aは県平均を大きく下回った。
 国語B、算数Bについては、県平均との差が昨年度より縮まった。
 国語Aでは「引用」の問題に、算数Aでは小数、分数の基礎的な加減乗除の問題に大きな課題が残った。

・県(中学校)
 4教科とも県平均をやや下回った。
 国語、理科については、県平均との差が昨年度より縮まった。
 数学や社会科の活用問題では、複数の資料から読みとったことを説明したり記述したりすることに課題が残った。

【学習状況調査の結果】

学校の宿題や予習・復習をしている割合が、県平均より高い。
 平日の読書時間や図書館利用率が、県平均より高い。
 平日にテレビを1時間以上視聴する割合は、県平均より少ない。
 「近所の人によくあいさつする」と回答する児童生徒の割合は、県平均より高い。
 「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒の割合が、県平均より低い。
 「授業中によく話し合い活動をした」と回答する児童生徒の割合が、県平均より低い。
 自分たちで課題を立て、追究していく課題解決型の学習を経験した割合が県平均より低い。

成果と課題

「国語が好き、よくわかる」と回答する児童の割合が県に比べて少ない。(県比マイナス10%以上)
 「算数がわかる」と回答する児童が少なく(県比マイナス6.5%)、基礎的事項の定着も不十分であった。
 「理科がよくわかる」と回答する生徒が多く(県比プラス6.1%)、「観察や実験の技能」で改善が見られた。
 国語のB問題では、条件をそるえたり「引用」したりして書く力に課題が残った。
 「社会科の学習が好き」と回答する生徒は多いが、基礎的事項の定着が不十分であった。
 授業の中で話し合い活動を行った児童生徒の割合が県に比べて少ない。(県比マイナス19%以上)
 学習を振り返る活動を行った児童生徒の割合が県に比べて少ない。(県比マイナス12%以上)
 平日に図書館を利用する生徒の割合が46.8%(昨年度32.7%)と増えた。
 家で授業の予習・復習をしている児童の割合が県平均より高い。(県比プラス14.1%)
 土日に、1時間以上家庭学習をする児童の割合が県に比べて少ない。(県比マイナス12.1%)
 平日のテレビやゲーム視聴が1時間以下の生徒の割合が25.8%(昨年度19.2%)と増えた。
 自己肯定感が高い児童の割合が県に比べて少ない。(県比マイナス36%)

課題に対応した改善方法

毎日の授業の中で、自分の考えをノートに書く活動を取り入れ、ノートの書き方指導も徹底する。
 「単元を貫く言語活動」や平行読書(多読)を設定し、児童が主体的に取り組む国語をめざす。
 算数の授業では、webプリントを効果的に活用して、前時の復習や定着テスト等を毎時間行う。
 学力・学習状況調査及び到達度確認テストの問題を単元ごとに授業で活用する。
 校内研究の中で、授業ファイブの定着、思考力と表現力を伸ばす授業改善を追究する。
 学年に応じて系統性のある話型を提示し、学校として統一した話し方・聞き方をめざす。
 どの教科においても、ペア学習や班学習等の話し合い活動を積極的に取り入れる。
 4年生以上の補充学習では、基礎と発展コースに分かれて実態に合わせた学力保障をめざす。
 毎月、ノーマディア週間に家庭学習の時間や内容調査も行い、家庭学習時間の確保を徹底する。
 引き続き「夜9時以降、ゲーム機、スマホ等は保護者預かりの学校」宣言を徹底していく。
 縦割り班活動で互いに関わり合う機会を確保して、高学年児童に自己有用感を持たせる。
 小中連携事業による「ピアサポート」アンケート調査を検証して、実態に応じたサポートをする。

取組の検証方法及び検証時期

児童へのアンケートの実施(学期ごと)
 職員へのアンケートの実施(学期ごと)
 過去問題を活用した校内学力テストの実施(2,3学期)
 授業改革推進委員との連携による授業評価(毎週)
 ノーマディアと家庭学習時間調査アンケートの実施(毎月)
 「ピアサポート」アンケートの実施(学期ごと)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

「算数がわかる」と回答する児童の割合を80%以上にする。
 「国語が好き」「授業がわかる」と回答する児童生徒の割合を県平均以上にする。
 全国及び県学力テストの過去問題テストで県平均を上回る。
 土日に家庭学習が1時間以下の児童生徒の割合を県平均より少なくする。
 毎日どこかの単元で話し合い活動(ペア・グループ)を取り入れる。
 「自分によいところがあります」と回答する児童の割合を80%以上にする。